

平成19年(ワ)第1904号・4279号 ボランティア基金返還等請求事件  
原告 鎌田まりみ 外35名  
被告 アーク・エンジェルズこと林俊彦

## 準備書面 (被告12)

2009年(平成21年)3月26日

大阪地方裁判所 第11民事部合H係 御中

被告訴訟代理人弁護士 橋 口 玲



同(担当) 太 田 健 義



### 記

#### 第1 原告による被告のプライバシー侵害

1 乙15は、原告鎌田が運営するHPのトップページである。同ページ上部の「裁判資料」をクリックすると、乙16のページが現れる。

冒頭に「このページの資料は被告の申し入れにより、非公開とさせていただいております。」と記載されているものの、乙16・2枚目の10「AAの口座 5口座分析資料」をクリックすると、乙17のエクセル資料が表示される。

乙17には、被告がアーク・エンジェルズのHPで公開している以外の口座も公開されている。すなわち、乙17下部の「●今回調査囑託によって判明した新たなるAAの5口座」には、被告が公開していないばるる口座の口座番号と名義人が明記されている。

また、冒頭には、調査嘱託の回答内容が記載されており、口座番号や支店名は隠されているものの、振り込み銀行名や振り込み金額のみならず、操作日や振り込み指定日までが明記されている。さらに、「KM統括の母」として、すぐに個人が特定される記載もなされている。

以上の記載は、被告やその関係者に対するプライバシー侵害というほかない。

- 2 被告は、すでに、準備書面（被告4）において、原告がネット上で裁判資料を開示していることを問題にし、「原告の意図が、裁判資料の公開にあることが判明した以上、これ以上任意の資料開示に応じることは出来ない」と明言した。その後、原告が資料開示を停止したため、被告は、これまで調査嘱託にも応じてきた。

しかしながら、原告の目的が、やはり調査嘱託結果をネット上で公開するのみならず、被告のプライバシー侵害をも目的としていることが再度明白になった以上、被告は、今後一切の証拠提出をしないし、出来ない。もちろん、調査嘱託等の手続にも強く反対する。

- 3 そもそも、準備書面も証拠も、裁判所に宛てて提出する物であり（宛名は、相手方当事者ではなく、裁判所である。）、相手方当事者が受け取るのは副本であって、あくまでも正本は裁判所の物である。また、その目的も裁判のための主張及び立証に用いるためであって、相手方当事者がネット上で開示するためではない。
- 4 原告の目的が、裁判資料のネット上の公開にとどまらず、被告のプライバシーの公開にもあることが明らかとなった以上、請求の趣旨と関係がないから、すみやかに原告の請求は棄却されるべきである。そもそも、原告は、被告の財産管理状況を調査する必要があると主張して、通帳等の開示を被告に求めていたのであるが、ネット上で公開する必要は全くない。明らかに、訴訟の目的から逸脱している（原告が、もともと被告のプライバシー侵害を目的としていたのであれば、逸脱していないのかもしれないが。）。被告とし

ては、裁判で争うことには全く異論はないが、通帳の口座名義や通帳の記載内容を公開されることは一度も承諾したことはない。むしろ、強く反対してきた。したがって、被告の指摘にもかかわらず、原告が再度裁判資料を公開しただけでなく、被告のプライバシー侵害を行った以上は、速やかに本訴は棄却されるべきである。仮に、裁判が継続されるとしても、被告はこれ以上証拠を提出するなどして応訴することが出来ないが、そのために被告が不利益を被るいわれは全くない。

第2 平成21年3月25日付調査嘱託申立書について

上記の理由から、調査嘱託申立については、強く反対する。

裁判所に対しては、これ以上、被告のプライバシーがネット上で広く公開されるのを避けるべく、調査嘱託申し立てを採用しないようお願いする。

第3 原告代理人に対する求釈明

- 1 原告代理人は、乙17の存在を知っていたか。
- 2 知っていた場合、同代理人は、乙17の公開について、原告鎌田から事前に相談を受けたのか。
- 3 相談を受けた場合、どのようにアドバイスをしたのか。

以上